

和議第112号 平成22年6月23日 原案可決

エルトゥールル号遭難事件120年の節目に当たり日本とトルコ共和国の友好発展を祈念する決議

明治23年(1890年)9月16日、オスマン海軍少将を団長とする友好使節団一行を乗せたトルコ海軍の軍艦エルトゥールル号は、帰国の途上台風に遭遇し、和歌山県大島村(現串本町)の檜野埼灯台沖の岩礁に激突、沈没し、乗組員六百数十名のうち生存者が69名という大惨事となった。

遭難に際し、当時の大島島民は不眠不休で生存者の救助、介護、また殉難者の遺体捜索、引き上げに当たり、日本全国からも多くの義援金、物資が遭難将士のために寄せられた。

エルトゥールル号の遭難は誠に痛ましい悲劇ではあったが、日本の官民を挙げての救援活動はトルコ本国に伝えられ、トルコ国民の心の中に日本に対する親愛と感謝の念を根付かせるきっかけとなった。

地元串本では、エルトゥールル号の遭難以来、第2次世界大戦中には一時的に中断したものの、トルコとの共催で5年ごとに慰霊祭を催し、現在に至っている。

昭和60年(1985年)、イラン・イラク戦争が激しさを増すなか、イランの首都テヘランから脱出しようとする百数十名の邦人を救出したのは、2機のトルコ航空機であった。この救出劇の背景には、95年前のエルトゥールル号事件を礎として続いている両国の極めて親密な友好関係があったと言われている。

本年は、エルトゥールル号遭難事件から120年目という節目の年に当たることから、日本・トルコ両国政府による「2010年トルコにおける日本年」に位置づけられており、両国の友好関係をより深めるため、トルコ国内において日本の文化等の紹介行事が一年を通じて多数開催される。特に、9月には、串本町と友好関係にあるメルシン市において、エルトゥールル号120年慰霊式典が挙行される予定である。

ここに本議会は、日本とトルコ共和国の両国民間の相互理解、友情、交流を一層深め、両国の友好関係を末永く続けていくことを願うものである。

以上決議する。

平成22年6月23日

和歌山県議会